

普段着のわたしたち



一宮の常念寺様にて講習会がありました。

若い女性が入れ代わり立ち代

わりお参りに来られてました。

皆さんこのお手水の紫陽花の写真を撮りに来られていました。

征阿

夏、冷えたハイボールに一番合うのは、やはり「たこやき」でしょう。醤油味、ソース味どちらでも良いでしょう。以前、お盆参りの途中で、京阪「森小路駅」のガード下で食べた「たこやき」が忘れられません。はち切れそうな真ん丸で表面がパリっ！、中とろとろです。さすが大阪だと思ったものです。岐阜にはありません。それに真ん丸でなく釣鐘型です。更に私がいつも買うものは、最初から意図的に釣鐘型として焼かれたものではなく、真ん丸に焼かれたにもかかわらず、重力に耐え切れず変形した情けないものです。それでも買ってしまう「たこ焼き」…



俊徳丸

『友引町内会通信』はパソコンやタブレットでもお読みいただけます。検索は <http://www.daigoji-temple.jp/> 「友引町内会通信」をクリックしてください。寺務局

昨年六月号の「普段着」で載せた紫陽花「華あられ」。花が終わると切りそろえ、肥料をやり、植え替えをし、来年も咲け〜！と念じたものの・・・。

今年はこの有り様。



(涙) まるで別物。つぼみも1つ半。無念！

ふと目を転じれば庭の奥の方に、肥料もやらず、ほったらかしの雑紫陽花が大輪の花を

「これ見よがし」にわっさわっさと揺らしています。

甘やかしたせいか、ただただ新種は弱いのか。子育てにも通ずる自然の摂理。

訶梨帝母

なるべく 500 円玉でお釣りをもらえるように買い物を楽しみ、貯金箱が一杯になったら (3 万円ぐらい) 年金が振り込まれる口座へ入れます。



夫婦の老後資金として年金以外に 2000 万円の蓄えが必要とした金融庁の報告書で野党は大騒ぎ。あなた方、年金だけで老後は大丈夫と心底から信じていたの？

500 円玉貯金の問題点は、現在のペースだと 2000 万円貯めるのに 200 年ぐらい掛かることかなあ。

迷走坊

鳥羽水族館のジュゴン♀（名前はセレナ）。日本では唯一ここで飼育されていて、

昨年秋に飼育日数世界記録を達成しました。

今年は三十二年目で、元気に記録更新中。

この件がNHKの特番で放送され、それを見た愚息の「セレナに会いたい♡」という



熱烈要請に応じて、六月某日鳥羽水族館へ行ってきました。

セレナは、元々鳥羽水族館にいたジュゴン♂（じゅんいち）のお嫁さんとして1987年にフィリピンからやってきました。度々じゅんいちとの同居が試みられ、世界初飼育下での赤ちゃん誕生が期待されていましたが、ジュゴンにも相性というのがあるらしく、願いもむなしく2011年にじゅんいちが死亡。番組の中でも、セレナに近づこうとするじゅんいちを尾で叩きのめし、寄せ付けないというシーンがありました。50〜70年の寿命とされる中、33歳（推定）で死んで

しまったじゅんいち。セレナに愛されないストレスだったかと思うとまことに不憫。

ジュゴン（儒艮と書く）とは実に難儀な生き物のようです。似たところでマナティがありますが、いずれも草食の彼ら。マナティは海藻の他にレタス、キャベツ、白菜などを柔軟に食べ、一方ジュゴンはわがまま垂れ放題。アマモという海藻以外はなかなかお気に召さず、飼育員の愛溢れる試行錯誤の末、ロメインレタスならお口に合うことが発見され、実際我々が見に行った時も、ジュゴンの水槽にはロメインレタスがプカプカと浮かんでい

こもりうた54

ました。（ちなみにマナティは淡水域、ジュゴンは海水域に生息）

魚を丸飲みするイルカ類とは違い、ジュゴンは一度体調を崩すと、餌に薬を仕込むことも不可能。偏食家の神経質が虚弱なのは世の常。ジュゴンは絶滅危惧種。故に、飼育員は日夜、食べた量を計り、糞を拾い集め嗅ぎ、ストレス発散の為に遊ばせたり

と、我が子同様に大切に育てておられるようです。

さて、熱望していた愚息は入館するや否や、目の前に溢れる様々な魚たちに魅了され、しばらく目的を忘れ右往左往、欣喜雀躍。やがて「あ、セレナは？」と思い出し、ジュゴンの水槽へ。テレビで見るとサイズ感がまるで違ったらしく、わりと長い時間飽きもせずに張り付いて眺めていました。それくらい喜んでくれれば、母は満足じゃよ。



八百比丘尼伝説で比丘尼が食べて不老不死になった人魚の肉とはジュゴンだったとか。それはそれはとろけるほど美味しいそう。実際、琉球王朝に献上された記録もあり、福井県小浜市の空印寺には八百比丘尼が入定したという伝説の洞窟があるそうです。ここらあたりの話は愚息が泣いて怒るので、今しばらくは封印です。

史実よりも夢を …

2018 年 6 月に
「長崎と天草地方
の潜伏キリシタン
関連遺産」が『世界
遺産』に登録されま



した。大浦天主堂などの建築物も貴重ですが、
250 年余に渡り人々が密かに命がけで「信仰」
を守り通した史実も忘れてはいけないと思いま
す。戦後、「信仰」を無くした「民」だから
こそ、今、表舞台に出られたのだと思います。

岐阜美濃の地にある私のお寺にも「踏絵」と



「マリア観音像」3 体
が寺宝として存在しま
す。潜伏キリシタンの
世界遺産登録による影
響か、それを拝観に来
寺される方が以前にも

増して多くなりました。カトリックの信者の方、
潜伏キリシタンの研究者、2 月から 3 月は俳句
の方（踏絵はその頃の季語）、先月は神父さん
が来寺されました。そのような方々をお迎えす
る時、私の心は「幸静」です。

もう 10 年近く前に、時間
潰しに金山駅の本屋で立ち
読みをするため店に入ると、
何気なく右の『2010 年ベ
ストエッセイ集』の本を手
にしていた。死ぬ前日まで毎日かつ井を食べ
続けた作家、永井荷風の本だと勘違いをしたの



です。無意識にページを開くと。144 ページ宮
沢優著「いらすの井戸の話」というタイトルの
エッセイでした。「いらす」とは、遠い国「イ
スラエル」の事。2 ページに渡るこれを読んで、
「お導き！」だと直感しました。

その井戸は京都太秦(うずまさ)にあります。
探しに行きました。広隆寺の駐車場入り口にあ
る細い路地を入った所です。太秦は平安時代初
期に中国から渡来した秦氏がつくりました。秦
氏は、中国では「景教」を信仰していました。
景教とは、ローマでのキリスト教の一派でした。
派閥間の闘争に敗れ東方へ追放され、中国では
景教と呼ばれていました。秦氏は漢訳の聖書を
持参して渡来後も太秦の地で信仰を続けたと
言われています。その証が「いらすの井戸」で
す。石の井戸囲いにひらがなでそう刻んだのも、



教えの原点でもあるイスラ
エルの地を偲んでのことでしょう。
う。そう刻まれた井戸は、以
前は太秦内に多数あったそう

です。だから、1549 年にザビエルが日本にキ
リスト教を伝えるよりも前に、秦氏が伝えたこ
とになります。後に親鸞聖人は太秦に滞在した
折に、秦氏から漢訳聖書を借り受け、それを読
んでいたとの説もあります。親鸞の「悪人正機
説」は、イエスの教えの「汝の敵を愛しなさい」
からきている感じさえあります。

史実である証拠などありません。しかし、こ
のエッセイのおかげで来訪されるキリスト教
関係の方々を自然体でお迎えし、私なりのお話
が安心して出来るのだと思います。 俊徳丸

『私説法然伝』(54)

陰謀術数③

先月号では「鹿ヶ谷の陰謀」について書きました。今月号はその続きについて書きます。

【「鹿ヶ谷の陰謀」はものの見事に清盛によって封じられた。そして平家政権は完全に政治的主導権を握ることができた。しかしそれが平家政権の崩壊の序章であった。表面上は後白河帝も清盛も友好ムードを保っていたが、それはあくまで表面上に過ぎなかった。治承二年(一一七八年)清盛の娘であり中宮であった建礼門院徳子と高倉帝との間に皇子が誕生する。これにより清盛は天皇の外祖父として完全なる権力者となった。皇子は皇太子として周りも平家側の公卿らで固められた。後白河帝をはじめとする反平家側が何もしなければ平家政権は完全に安泰という状況である。しかし翌年の治承三年(一一七九年)平重盛卿が病を理由に内大臣の職を辞し、同年亡くなって

しまう。反平家側を抑える事が出来る人物がいなくなったのだ。「鹿ヶ谷の陰謀」の発覚後、怒り狂い武装し兵を引き連れて今にも出陣し後白河帝をも討たんとしている清盛に対して「後白河帝の恩に報いようとするれば父の恩を忘れた不孝者となり、父の恩に報いようとすれば不忠の逆臣となる。我が進退ここに谷まれり」と涙ながらに父清盛を諫めたという逸話があるほど、後白河帝と清盛の間で苦悩し調整に努めた人物の死であり、その死の影響は平家全体の今後を左右するものであった。

同年に清盛の娘で故関白近衛基実卿の妻であり莫大な摂関家領を相続していた白河殿・平盛子も亡くなる。その遺領を後白河帝と関白松殿基房卿(基実の弟)が手を組み没収してしまった。さらに重盛の遺領も後白河帝は没収してしまったのである。これは明確な反平家活動であった。後白河帝は反平家であることを隠すことなく行動し始めたのである。この後白河帝の反平家の活動開始は実に巧妙なタイミングであった。清盛の推し進めた「宋銭」の大量輸入と流

通は物価の暴騰を引き起こしていた。同時に起こった疫病の流行は「宋銭の病」という噂が広まり、世間的な反平家の機運が高まっていた時期であったのだ。清盛は物価の安定の為に估価法という物価の公定価格を決める法律を定め、世情の安定も図られたが、後白河帝は宋銭そのものの禁止も目論んでいたという。後白河帝の一連の動きは清盛を動かすには充分すぎる内容であった。」

平重盛という人は『平家物語』では「人生が傾く時は悪事を思いつくものだ」と平家の滅亡を予言するかのような言葉を清盛たちに投げかけています。また頼山陽という江戸時代の歴史家・頼山陽が著した『日本外史』には重盛の言葉として「忠ならんと欲すれば孝ならず、孝ならんと欲すれば忠ならず」という有名な言葉があります。重盛は長年仕えた後白河法皇と実の父である清盛、この二人の抑えの役目であったと言える存在でした。重盛のおかげで「平和」が保たれていたのです。

以下次号に続く(征阿)

本物の美人が大切にしたもの

今年はおードリー・ヘプバーンの生誕 90 周年。懐かしの作品の DVD を取り出したら、サム・レヴェンソンの詩『時を越えた美しさの秘密』が一緒に出てきました。彼女が死を目前にして愛する 2 人の息子に読み聞かせたという詩です。少々長いですがご紹介します。



魅力的な唇であるためには、美しい言葉を使いなさい。

愛らしい瞳であるためには、他人の美点を探しなさい。

スリムな体であるためには、飢えた人々と食べ物を分かち合いなさい。

豊かな髪であるためには、一日に一度子どもの指で梳いてもらいなさい。

美しい身のこなしのためには、決してひとりで歩むことがないと知ることです。

物は壊れれば復元できませんが、人は転べば立ち上がり、失敗すればやり直し、挫折すれば再起し、間違えれば矯正し、何度でも再出発することができます。

誰も決して見捨ててはいけません。

人生に迷い、助けて欲しいとき、いつもあなたの手のちょっと先に助けてくれる手がさしのべられていることを、忘れないで下さい。

年をとると、人は自分にふたつの手があることに気づきます。

ひとつの手は、自分自身を助けるため、もうひとつの手は他者を助けるために。

女性の美しさは 身にまとう服にあるのではなく、その容姿でもなく、髪を梳くしぐさにあるのでもありません。

女性の美しさは、その人の瞳の奥にあるはずで

す。そこは心の入り口であり、愛情のやどる場所でもあるからです。

女性の美しさは、顔のほくろなどに影響されるものではなく、

その本当の美しさは その人の精神に反映されるものなのです。

それは心のこもった思いやりの気持ちであり、時として見せる情熱であり、

その美しさは、年を追うごとに磨かれていくもののなのです。



ヘプバーンは、後半生のほとんどを国際連合児童基金（ユニセフ）での仕事に捧げまし

た。1988 年から 1992 年にはアフリカ、南米、アジアの貧困国を訪れ、飢餓による死に怯える子どもたちの援助活動に献身しています。

彼女がこよなく愛した詩の中に佛陀の教えと共通する点があることに気づき、映画ではうかがい知れない、ヘプバーンが本当に大切にしたものを感じました。 迷走坊

続・観経物語(1)

《続編を始めるにあたって》

前回までの百三十回にわたって観経物語かんぎょうものがたりを続けてきましたが、読者に「観経」

の深い内容は、うまくお伝えできたでしょうか。この掲載を始めた意図は、私達が普段の「ご法事」などで読経している『佛説観無量寿経』せつかんむりようじゆきやうがどのような内容を持った経なのか意味を知りたい、という質問にお答えしようということから始まりました。全ての疑問にお答えできたかどうか、ただ経文の字面を追っていただけでは、深い意味や裏に隠された深意を読み解くことができたかどうか反省しきりです。

この「観経」は、昔、お釈迦さまが在世のとき、インドのマガダ国の王宮で起こった、父王・頻婆沙羅(ビンバサーラ)と王妃・韋提希(ヴァイデーヒ)夫人、そしてその子の太子・阿闍世(アジャータシャトル)の逆悪の悲劇の物語に端を発し、憂いなき清浄の処を求め、釈尊に救われた韋提

希夫人の回心(＝得忍)の体験を、遠く広く佛の滅後のあらゆる衆生を凡夫として救済する經典であると言われていますが、ただ經典の字面を追っているだけでは、ことに韋提希の回心・得忍の宗教的な生まれ変わり、それがまた未来の私達の救済であることまでは、読み込むことは困難なことでした。そこで後世になって、中国に伝来してからは、盛んに解説書が作られるようになりました。天台宗の智顗(523～592)の『佛説観無量寿経疏』や、淨影寺慧遠(523～592)の『観無量寿経義疏』さらには三論宗の嘉祥大師吉藏(549～623)の『観無量寿経義疏』などですが、これらは修行僧の初歩的な観法の指南書として観経を理解をするものでした。これらの観経理解を批判して現れたのが、善導大師(613～681)の略称『観経疏』でした。善導大師は、修行僧の自力行の教えとしてでなく、全ての人が他力によって救われる教えが「観経」であるとの立場からこれを読み解かれていきました。この『観経疏』の經典理解が、最高かつ最終的なも

のとして現在の我が宗派では読み続けられているのですが、どうしたら「観経」の字面からこのような理解が読み解かれるのかを探るために、もう一度、直接「観経」を読んでみようと思ったのが「観経物語」でした。何度もそして深く読む努力をすればあの難解複雑な「観経」からでも善導大師の『観経疏』の理解に近づけるものだと納得させられました。ともかく難解な書物も、知的好奇心と深奥に潜むものを探り出そうとする探究心が備わったとき、その真髓を露にするでしょう。さらにそこに信心の御心を加え、新たに「観経」及び『観経疏』を読み直した時に生まれたのが『観経要讃』という書です。これは関本諦承老師(1860～1938)という総本山光明寺第六十九世法主が著わされた要点をあぶり出し讃(詩句)にした書物です。次回からはこの本に沿って、もう一度「観経」を読み直してみましょう。

《妙星齋》